

令和6年度三田市高校生議会 質 問 書

【質 問 者】 8番 三田松聖高等学校 2年 小林 優太(こばやし ゆうた)

【担 当 課】 子ども・未来部 子ども育成課

【答弁予定者】 子ども・未来部長

【質 問 事 項】 通学定期代の補助による教育費へのサポートについて

【質 問 内 容】

8番 高校生議員 三田松聖高等学校 2年の小林 優太です。私からは三田市の教育関係の補助金について質問します。三田市を子育て世代に優しく人口が増え、活気のある街にしたいと考えます。

日本全体の課題として人口の減少や少子高齢化が挙げられ、三田市においても同様です。様々な原因が挙げられますが日本の経済状況がよくない中、子育て世代にとっては教育費にかかる負担が大きい。

このことが原因の一つとして出生数が少なかったり、子供を持たない夫婦が増えたりしていると考えました。そして三田市が独自の補助金制度を行うことで、他の市町村・他府県から三田市に人口が流れてきて三田市に住む人が増えるのではないかと思いました。そこで私は三田市の予算における教育福祉に対する予算を増額し、三田市の学校に通う生徒、三田市から他の地域などに通学する生徒に対して定期代の補助をすることを提案します。

提案が実現すれば家計における教育費負担が大幅に減り、生活とりわけ経済的ゆとりが見込まれ、新たな「まなび」の推進が期待されます。

このように子育て世代の教育関係や経済的負担が減ることは住みよい三田市への一歩につながると考えます。また、少子化の歯止めにつながると考えます。

三田市の教育費関係の補助が少子化の歯止め、あるいは三田市の人口増加につながるのではないかと考えます。

このことについて、市の考えをお聞かせください。

【答 弁 内 容】

私からは、議員ご質問の「通学定期代の補助による教育費へのサポートについて」お答えいたします。

議員がおっしゃる「三田市を人口が増え活気のあるまちにしたい」との思いは、私たちも同じです。

議員からは、少子化の原因について、子育て世代にとって教育費の負担が大ききことが挙げられるのではないかとのご指摘がありました。

一人の子どもが生まれてから4年制大学を卒業するまでに必要な費用は、一説には3,000万円から4,000万円とされています。出生数が少なくっている原因の一つではないかとのご指摘は確かに首肯できるところです。

一方で、少子化の要因には、議員もご質問で述べられておられるとおり、様々な原因が想定されます。たとえば、晩婚化や未婚者の増加、出産年齢の高

年齢化などが挙げられます。ただ、これらについても、その背景に、雇用状況や経済的不安定さなどがあるものと考えられます。

こうした状況を踏まえたうえで、議員ご提案の「通学定期代の補助」についてですが、「教育費に係る負担軽減」という目的には合致していると思われませんが、制度の導入にあたっては、慎重な検討が必要であると考えます。

通学定期の利用者は、中学生や高校生だけでなく、大学生もおられます。また、遠方まで通学されている方もおられることでしょう。広く、多くの方々に補助という形で経済的支援が行われるのが望ましいのはいうまでもありませんが、限られた財源の中で対応しなければならない中では、目的を達成するために、最大限の効果を発揮できる手法を検討することが必要です。

議員ご指摘の「少子化の歯止め」や、「三田市の人口増加」を実現するために、どのような支援が必要で、またその優先度やどう組み合わせると効果を最大限に発揮するのか、議員のご提案、アイデアの着想、視点も含め、今後も継続し、検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解賜りますようお願いいたします。